

<h1>HOMAS</h1>	日本語版 ニュースレター	No. 72 平成 25 年(2014 年)7 月 31 日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫
	<i>Hokkaido Massachusetts Society</i> 北海道・マサチューセッツ協会	発行所 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 道庁別館 12 階 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail mnakagaki@jcom.home.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち(27)

『ニッカウイスキー』をつくった 竹鶴 政孝の生涯と業績 — 日本のウイスキーの父 政孝と献身的に支えた スコットランド生まれのリタ夫人 —

■ まえがき

酒(さけ)は、アルコール飲料の総称で、その歴史は古く、有史以前からつくられており、種類も製造方法も多様です。広義には、日本酒・ビール・ウイスキー・ワインなどがあり、狭義には、日本酒(清酒)を指し、今日では、「SAKE」が世界の共通語となっています。全体的に、大まかな歴史を少しばかりたどって、今回「HOMAS」72号では、「日本のウイスキーの父」ともよばれたニッカウイスキー創業者・竹鶴政孝(1894-1979)のウイスキーづくりへの情熱にスポットを当ててみたいと思います。

■ 酒(さけ)の歴史

BC7,000年ころ、中国の賈湖遺跡(河南省)から出土した陶器片から検出された醸造酒の成分が、いまのところ考古学的には最古の「酒」とされています。中国では、殷・周のころ、酒は国家の祝祭において重要な意味をもっており、もともと神事に供されたものであり、精巧な青銅の酒器が多く残されています。ギリシア・ローマは、葡萄の産地ということもあり、ワインが多く生産されて、酒神ディオニソス(ギリシアではバックス)の祭事に供されたものであったようです。

まず、酒(アルコール飲料)は、大きく分けて、次の①醸造酒、②蒸留酒、③混成酒に分けられています。①醸造酒は原料をそのまま、もしくは原料を糖化させたものを発酵させた酒です。糖化とアルコール発酵が同時に行われる「清酒」などと、糖化の過程が終ってからアルコール発酵が行われる「ビール」などに区別されます。②蒸留酒は、醸造酒を蒸留し、アルコール分を高めた酒で、樽熟成を行わないホワイトスピリッツと何年かの樽熟成で着色されたブラウンスピリッツに分類されます。ウイスキー、テキーラ、ラム酒などがあります。③混成酒は、主に蒸留酒を原料として、香り・味付け糖分や色素を加えて造られたもので、多くの種類があります。

また、その原料によって、酒の種類がある程度決まるといわれますので、次に主な分類をあげてみますと、①穀物原料のもの：米(清酒、焼酎、どぶろく、紹興酒、泡盛、マッコリなど)、大麦(ビール、モルトウイスキー、麦焼酎)、トウモロコシ(バーボンウイスキー)、蕎麦(蕎麦焼酎)など。②果実原料のもの：葡萄(ワイン、ブランデー)、リンゴ(シードル)など。③根菜類原料のもの：サツマイモ(芋焼酎)などがあります。

今日では、お酒は広く嗜好品として楽しまれ、また料理などにも用いられていますが、健康面での効用、弊害などなどいろいろありますので、ここでは詳細については取り上げません。

■ 酒の歴史—日本の酒

日本の酒については、3世紀に書かれた「魏志倭人伝」の中にその記述が見られますが、米の酒なのか、また液体なのか・かゆ状のものなのかなど不明のようです。酒が米を原料として造られるようになったのは、弥生時代に稲作が渡来定着した後で、西日本の九州、近畿での酒造りが起源と考えられています。この頃は、加熱した穀物(米)を口でよく噛み、唾液の酵素で糖化、野生酵母によって発酵させる「口噛み」という原始的な方法によるものでした。酒を造ることを「醸す」(かます)というのは、この「噛む」ことを語源としているといわれます。この「口噛み」の作業を行うのは巫女に限られており、酒造りの仕事は神聖なものとしてされていました。こうした酒造りが、次第に国内に広まっていったことは、古事記・日本書紀・風土記・万葉集などの文献に見ることができます。まだ、「神々の酒」「天皇の酒」の時代でした。

平安時代になると、国の祭事・ハレの日の食事として、酒が供されるようになりますが、宗教的儀礼の中であって、神に供えることで豊かな収穫や無病息災を祈り、そのお酒を飲むことで災厄をはらう、お酒は神と人を結びつける役割を担う神聖なものでした。しかし、お酒は祭礼やお正月、慶事の際に集団で飲むもので、多くは朝廷や武家、神人、僧といった一部特権階級のものでした。

鎌倉時代になると、かなり普及するようになり、少人数あるいは個人でお酒を飲むことも一般的になってきたようです。室町時代になるとかなり一般化し、徳利などの酒器が定着し、また酒が樽に詰めて売られ、親類縁者の寄り合い酒も通常のことになったようです。酒屋の屋号も登場しています。江戸時代に入ると、お酒は一般の嗜好物として日本人の生活の一部となって今日に至ります。

■ 酒の歴史—日本のビール

日本ででのビール生産は、1869年(明治2年)、横浜の「ジャパン・ブルワリー」「スプリング・バリー・ブルワリー」が最初とされますが、日本人による最初のビール醸造は1872年(明治3年)に大阪の渋谷(すぶたに)庄三郎が造った「渋谷麦酒」といわれます。その後、日本人によるビール醸造は急激に増加して、甲府の野口正章の「三ツ鱗ビール」(1874年・明治7年)、北海道開拓使による「札幌冷製麦酒」<1876年(明治9年)村橋久成・中川清兵衛>、横浜近郊の保坂森之輔の「北方ビール」、東京の清水谷商会の「桜田ビール」、東京の宮内福三 FM 商会の「手形ビール」、大阪麦酒株式会社の「アサヒビール」「エビスビール」(1889年・明治22年)などがありました。その後の、好況不況の中、札幌麦酒・大阪麦酒・日本麦酒の3社の大合併による「大日本麦酒」などとなり、戦後の混乱を乗り越えて1955年(昭和30年)代以後は、ビール消費も安定的に増大して今日に至っています。現在の日本の主要ビール醸造は、キリンビール、アサヒビール、サッポロビール、サントリービールの4社です。

■ 酒の歴史—日本のウイスキー

日本に初めてウイスキーがもたらされたのは、1853年(嘉永3年)6月23日のこと、ペリー提督のアメリカ合衆国東インド艦隊によって沖縄に伝えられたとされています。そして約2週間後、艦隊が浦賀沖に停泊して、浦賀奉行などがウイスキーの歓待を受け、その後徳川将軍への贈り物として樽単位で献上されています。しかし、こうして伝来したウイスキーも、洋酒自体がまだまだ高価なこともあり、なかなか人々の間に浸透しませんでした。

関東大震災の1923年(大正12年)、京都山崎で日本初のモルトウイスキー蒸留所(寿屋山崎工場)の建設が始まり、わが国独自の本格的なウイスキーづくりが開始します。そして6年後1929年(昭和4年)国産ウイスキー第1号「サントリーウイスキー白札」が誕生して、少しずつ人々が興味を持つようになってきたようです。……第2次大戦後、数度の酒税法改正により、それまで高級酒であったウイスキーも、ハイボールや氷割りなどで一般に広く飲まれるようになります。1971年(昭和46年)

には、アメリカのバーボンウイスキー、フランスのコニャックに続いて、イギリスのスコッチウイスキーも、の輸入自由化・関税引下げとなり、高級酒にも手が届きやすくなり、輸入洋酒ブームが起こったといわれます。この流れを受けて、国内酒造会社も本格的に高級ウイスキー造りに参入、今日では、日本のウイスキー業界も着実に成長を遂げて、産地による分類では、スコッチウイスキー、アイリッシュウイスキー、カナディアンウイスキー、アメリカンウイスキー、そしてジャパニーズウイスキーとして、世界5大ウイスキーのひとつとして認められるようになったといわれます。

■ 日本のウイスキーの父：竹鶴政孝の生い立ち

さて、日本のウイスキーの歴史を語るなかで、その名を欠かすことはできないといわれるのが、「竹鶴政孝」(1894, 6, 20~1979, 8, 29)です。日本で最初に本格ウイスキーを造った人物、『日本のウイスキーの父』と呼ばれています。

竹鶴政孝は、広島県竹原町(現竹原市)で、酒造業・製塩業を営む竹鶴敬次郎の四男五女の三男として、1894年(明治27年)6月20日に生まれました。兄二人は別の道へ進んだため、政孝が家業を継ぐこととなり、大阪高等工業(後の大阪工大、現大阪大学)醸造科へ進学します。

しかし、父の思惑とは違って、政孝は新しい酒である洋酒に興味を持ち、先輩の岩井喜一郎(摂津酒造常務)を頼り、1916年(大正5年)3月、卒業を待たずに、大手洋酒メーカー「摂津酒造」に入社します。そして、この年12月徴兵検査甲種合格のところ、「アルコール製造は火薬製造に必要な技術であり、軍需産業活性化に役立つ」という判断で乙種合格となり、軍隊に入隊せず摂津酒造勤務を継続することとなったといわれます。

1918年(大正7年)、政孝は社長阿部喜兵衛から、「スコットランドに行ってウイスキーを勉強してくる気はないか」といわれます。政孝は、単身スコットランドに赴き、グラスゴー大学の応用化学と有機化学の聴講生として入学することとなりました。ここでは、さまざまなウイスキー関連のこと、さらに政孝の人生を決定づける大きな出会いがあったのでした。ウィリアム教授の紹介によりウイスキーの本場、ハイランド地方のローゼスという町に下宿することになります。

このスコットランドウイスキーの本場で、政孝は、多くの蒸留所を訪ねて製造法を学び、ロングモーンの工場では蒸留器を叩いてその反響で蒸留の進行度合いを知るまでに至ったといわれます。その間、政孝は1日も欠かさず、その日見たこと習ったことのすべてを克明にノートに書き記したといわれます。後に、この「ノート」が日本の本格ウイスキーづくりに役立つことになったのでした。

このスコットランド滞在中、グラスゴー大学で知り合った医学部唯一の女子学生イザベラ・リリアン・カウン(通称エラ)に頼まれて、「日本の柔術を習いたい」という末弟ラムゼイ少年に柔道を教えることとなり、グラスゴー校外にあるカーカンテロフの開業医カウン家を何度も訪ねた折に、後に生涯の伴侶となる女性に出会うこととなります。

その女性、エラとルーシーの姉、ジェシー・ロベルタ・カウン(通称リタ)(1896-1961)です。ピアノを弾き、文学好きの女性でした。彼女は政孝の夢を真摯に追い求める生き方に惹かれ、急速に親交を深めていきました。その年のクリスマスにプディング占いをしました。それは男の子のケーキに6ペンス銀貨が入っているとお金持ちになり、女の子のケーキに銀の指抜きが入っていればいいお嫁さんになるという占いでした。それがまさに二人ともピタリと当たったのでした。やがて政孝はプロポーズを決意しましたが、家族は反対でし



来日前の政孝とリタ

た。しかし二人の意思は変わらず、妹エラ、ルーシー、弟ラムゼイを含むリタの家族ほとんどの反対を押し切って、1920年(大正9年)1月8日結婚します。政孝26歳・リタ24歳でした。教会ではなく登記所で、2名の証人と登記官の前で宣誓と署名をするだけの寂しい結婚式であったといわれます。そしてその年11月、正孝は、リタとともに日本へ帰国します。

帰国後、摂津酒造は、いよいよ純国産ウイスキーの製造を企画しますが、不運にも第一次世界大戦後の恐慌によって資金調達が困難となり計画は頓挫してしまいました。その後、1922年(大正11年)には、政孝は摂津酒造を退社。大阪の桃山中学(現桃山学院高校)で教鞭を執り化学を教えました。

■ ニッカブランドの誕生

1923年(大正12年)大阪の洋酒製造販売業者寿屋(現在のサントリー)が本格ウイスキーの国内生産を企画し、鳥井信治郎社長がスコットランドに適任者がいないかと問い合わせたところ、「わざわざスコットランドから呼び寄せなくても、日本には竹鶴という最適任者がいるはずだ」という回答が来たといわれます。同年6月、こうして、政孝は、鳥井社長に招かれて、年俸4,000円という破格の給料で寿屋に正式入社しました。この年俸はスコットランドから呼び寄せる技術者に払うつもりだった金額とおなじといわれます。早速、スコットランドウイスキーの著名な産地ローゼスの風土に近く、霧が多い山崎の候補地選りから工場建設に携わり、翌1924年(大正13年)11月11日山崎蒸留所初代所長として、日本最初の本格スコッチ・ウイスキー製造に取り組みます。醸造を行う冬季に故郷の広島から酒造りの「杜氏」(とうじ)を集めて製造を行ったのでした。1925年(大正14年)6月～12月には、ウイスキーおよび葡萄酒研究のため、イギリス・フランスを視察しています。そして1929年(昭和4年)4月1日政孝が製造した初の国産の「サントリーウイスキー白札」を発売しました。発売直後は不評でしたが、その後次第に売れ、日本中から注文が来るまでになりました。1931年(昭和6年)8月～翌年2月には、ウイスキーおよび林檎酒研究のため、イギリス・フランスを視察しています。この時は、妻リタ(34歳)、養女リマ、そして鳥井吉太郎を同行しています。

政孝は、鳥井社長の長男吉太郎をリタの元で英会話を学ばせ、後継の技師として育てて、1934年(昭和9年)3月契約の10年が経過したことから寿屋を退社します。いよいよ北海道余市町で、本格的なスコッチウイスキーづくりをする決意をします。…その厳しい寒さ、足元に湧く清冽な水、大地に埋蔵するビート…彼が技術を学んだスコットランドに似た気候風土を持つ理想の地と考えたのでした。当時病弱気味であったリタのためにもよいと考えたのでした。資本を集め、1934年(昭和9年)7月に「大日本果汁株式会社」(現在のニッカウイスキー)を設立し、代表取締役専務に就任します。筆頭株主は加賀証券社長(加賀正太郎)。加賀の妻は、1924年以来10年間、政孝の妻リタから英会話を学んでいたことから出資を決めていたということでした。

当初は、モルトウイスキーの熟成を待つための数年間、リンゴジュースを製造していたために、社名を「大日本果汁株式会社」としたのでした。1935年(昭和10年)5月「日果林檎ジュース」の出荷開始。他社の果汁入り清涼飲料6銭にたいして、果汁100%ジュースを30銭で販売開始しましたが、当初は、あまり売れなかったといわれます。同年9月、妻リタを余市に呼び寄せます。

そして、1940年(昭和15年)ついに念願の第1号ウイスキーを、社名の「日」と「果」を略して「ニッカウキスキー」として出荷したのです。政孝とリタが帰国して、実に苦節20年の歳月が流れていました。<1952年(昭和27年)に、社名を「大日本果汁株式会社」から「ニッカウキスキー」へ変更しています。>1941年(昭和16年)には、地元の旧制余市中学校(現余市高校)の校長先生の依頼で、ジャンプ台を寄贈しています。当初は桜ヶ丘ジャンツェと命名されましたが、その後「竹鶴ジャンツェ」と呼ばれ今日に至っています。後にニッカウイスキーに入社した笠谷幸雄は、このジャンプ台で練習し

て、札幌オリンピック(1972年・昭和47年)で金メダルを獲得しています。

1943年(昭和18年)政孝・リタ夫妻には、子供ができませんでしたので、甥にあたる宮野威を養子に迎えています。威は広島県生まれ、広島高専 発酵工学科を経て北大工学部応用化学を卒業。後に技師として政孝の後継者になります。

戦後の安い3級ウイスキー全盛の時代に、政孝はそれをウイスキーとは認めず、彼の本格ウイスキーを販売しなかったのです。やむを得ず販売する際にも、「日本人に本物のおいしいウイスキーを飲んで欲しい」というこだわりから、原酒を規定の5%まで配合し、価格も高く販売したため売れ行きはいまひとつだったといわれます。当時の営業担当者を集めた販売促進の席でも、政孝は、「われわれのウイスキーは他社のものとは違う。吟味に吟味を重ねた良い品質のものであり、高く売れないとおっしゃるなら止めていただいて結構です。われわれが誇りを持って造っていることを認識してもらいたい。」と言い放ったそうです。この政孝の自信に満ちた態度が功を奏し、やがて「ニッカ」は企業として成長していったのです。

1961年(昭和36年)1月17日、政孝に看取られてリタは永眠しました。65歳でした。政孝は余市工場を見下ろす丘に葬り、墓石にはいつでもリタと一緒にいられるようにと自分の名前も入れました。「竹鶴政孝 竹鶴リタの墓」の日本字と並び、英語で「IN LOVING MEMORY OF RITA TAKETURU BORN 14Th DEC 1896 DIED 17Th JAN 1961」と刻まれています。

■ 世界のニッカウイスキーへ

1931年(昭和6年)8月 1962年(昭和37年)英国のヒューム副首相が来日した際、「一人の日本人青年が万年筆とノートでウイスキー製造技術の秘密を全部盗んでいった」という意味の発言をしたといわれています。これはもちろん、政孝のウイスキーに対する情熱と努力に対する賞賛と驚嘆の言葉でした。<このノートはしばらく所在不明でしたが、のちに政孝が当時所属していた攝津酒造(1964年10月、宝酒造に合併)関係者の子孫が保存していることがわかり、ニッカウイスキーに寄贈されています。>

政孝念願の理想のウイスキーは、中性ウイスキーとのブレンドではなく、グレーンウイスキーを使った本物志向でした。そのためグレーンウイスキーの蒸留機にも、ウイスキーに個性を与えるカフェスチル(蒸留釜)の導入が必要でした。1962年(昭和37年)、朝日麦酒(株)(現アサヒビール)山本社長の力添えにより西宮工場にカフェスチルを導入。このカフェグレーンから「ブラックニッカ」「ハイニッカ」が誕生しました。(※現在はこのカフェスチルは仙台工場に移設されています。)

1956年(昭和31年)黄綬褒章を授与されています。1965年(昭和40年)政孝は、余市町の名誉町民に選ばれます。もうひとつの念願は、複数の蒸留所を持ち、異なった風土で生まれた原酒を合わせてより芳醇なブレンドウイスキーをつくることでしたが、この夢は、1967年(昭和47年)仙台新工場の建設により実現させたのです。1969年(昭和49年)勲三等瑞宝章を受章。1970年(昭和45年)5月ニッカウイスキー代表取締役会長に就任。同年9月には、北海道開発功労賞を贈られています。

そして、1979年(昭和54年)8月29日 政孝は85歳の生涯を閉じました。リタの没後18年でした。墓石には「29Th AUG 1979」と政孝の没年月日が刻まれました。今は二人一緒にニッカウイスキー余市工場を見下ろす丘に眠っています。



余市ニッカウイスキー工場内の

竹鶴政孝胸像

2001年(平成13年)には、世界唯一のウイスキー専門誌「ウイスキーマガジン」主催のテイステイングコンテスト「ベスト・オブ・ザ・ベスト2001」に、「シングルカスク余市10年」などを出品。ニッカウイスキーは、「香水のような香り」「驚くほどスムーズ」「非常に力強いフィニッシュ」という世界一流のウイスキーの評価を得て最高得点を獲得したのです。こうして日本のウイスキーの美味しさを世界に知らしめることとなり、ニッカウイスキーは、世界のニッカとなったのです。

■ 日本人になりきった妻リタの生涯

スコットランド人の女性ジェシー・ロベルタ・カウン(通称リタ)(1896-1961)は、まったく言語も生活習慣も違う大正時代の日本にやってきて、献身的に夫政孝を支え続けて、日本料理から漬物づくりまで得意とするまでになっていたといわれます。 <本稿では、リタの生涯について紙面の許す範



スコットランドの自宅前で
ルーシー・弟・エラ・リタ



日本での最初の住まい
帝塚山の借家二階で

で、ご紹介したいと思います。>

リタは、1896年(明治29年)11月24日、スコットランドグラスゴー郊外のカーカンテロフでカウン家の長女として生まれています。

父キャンベル開業医で、妻のアイダとの間には、リタに続いて妹のエラ、ルーシー、そして末っ子の男の子ラムゼイの4人の子供がいました。長女のリタは、幼少時から、喘息気味で病弱。あまり外に出ることもなく、いつもピアノを弾いたり、読書をする日々が多かったといえます。

リタは、グラスゴー学院を卒業、15歳の時に親の勧めで婚約した許婚者(ジョン)がいましたが、彼は陸軍士官学校を卒業、1914年(大正3年)第1次大戦に出征し、中近東戦線で戦死したのです。リタ18歳の時でした。彼女は悲報に接して、何日も部屋に閉じこもったままだったといえます。その頃、カウン家では、父キャンベルは、ロシアのバルチック艦隊を撃破した日本に関心を持つ親日家、弟ラムゼイは日本人から柔術を学びたいと思っていました。その後、グラスゴー大学医学部に進んだ次女エラと日本人留学生竹鶴政孝が大学の図書館で出会い、カウン家に招待されます。1919年(大正8年)6月末のことです。

それから、ラムゼイに柔道を教えるためにカウン家に出かけますが、両親も姉たちも柔道に感心して、政孝を歓迎しています。政孝とリタは、お互いに好意を抱き、それが愛に進んでいきました。そして、翌年6月末頃結婚の意志を固め、年末のクリスマスに招待され時のプディング占いの結果は、二人の結婚を運命付けるものとなりました。二人の結婚の意志は固く、家族みんなの反対を押し切って、1920年(大正9年)1月8日結婚したのです。政孝26歳・リタ24歳でした。その年11月、正孝は、リタとともに日本へ帰国します。当初は大阪帝塚山の二階建ての洋館風の借家に落ち着きます。リタは、家主の旧家(芝川又四郎)芝川家の三姉妹に英語とピアノを教え、後に帝塚山学院の英語講師もしています。この頃から、リタは余市で生涯を閉じるまで、政孝のことを、「マッさん」「マーさん」と呼んでいました。帝塚山には、イギリス人宣教師やグラスゴー大学卒業の牧師が住んでいて、リタの相談相手になっていました。

1923年(大正12年)政孝は、大阪の洋酒製造販売業者寿屋(現サントリー)の鳥井社長に招かれて、年俸4,000円という破格の給料で寿屋に正式入社しました。リタは、2年4ヶ月の教師生活の後、京都山崎へ移転します。この頃流産しているようです。その後、政孝の遠縁にあたる女性が産後に亡くなり、その赤ん坊がエンゼル乳児院に引き取られていることを知り、養女として迎えます。リタと名付けて高校卒業するまで育てています。スコットランドの末妹ルーシーからは何通も手紙がきて、母の健康がすぐれないこと、弟ラムゼイがカナダへ行ったこと、エラはロンドンで会社勤めをしていることや、ルーシーは結婚して二児の母親になり、母親アイダと暮らしていることなどが書かれていたのです。1931年(昭和6年)8月、政孝の視察に同行して、11年ぶりにカーカンテロフの実家に帰り、母親アイダに再会しています。

1932年(昭和7年)3月政孝の横浜ビール工場転勤に伴い横浜に引越していますが、リタの希望によりすぐに鎌倉に転居します。そしていよいよ1934年(昭和9年)12月リタは娘のリタを連れて余市に引越しました。この地で、リタは献身的に政孝を支えて、不況の時も、軍需景気に沸いた忙しい時も、政孝と苦勞をともにして生涯を送ることになったのです。リタは毎日、朝8時、12時、午後5時にカラン、コロン、カラン、コロン、と工場の鐘を鳴らしたといわれます。しかし、戦争中は、特高刑事に厳しく監視される毎日となり、体調を崩すこともありました。1954年(昭和29年)の暮れから高血圧と風邪に悩まされ、肺炎になります。一時期鎌倉の逗子海岸の家で暮らして体調を取り戻しますが、結核を患うこととなり、1960年(昭和35年)夏、余市へ帰ることを希望します。その年は、養子威(たけし)の家族とともに賑やかなクリスマスを自宅で過ごしますが、年が明けてから体調が悪化して、1月17日、夫政孝と養子威・歌子夫妻その孫たちに見守られて、64歳の生涯を閉じたのです。

リタは、自分の母の遺産は、自分は今長く日本にいて面倒をみていないからと相続を固辞しましたが、叔母から相続した遺産で余市に幼稚園をつくり、その「リタ幼稚園」は、現在も続いています。

■ あとがき

今回の原稿執筆のため、いろいろな資料は読み込んでいましたが、去る4月26日(土)、思い切って余市の「ニッカウイスキー」現地リサーチに出かけました。札幌から電車に乗り小樽乗り換え約1時間半で、余市駅に到着しました。駅前の広場には「リタロード」の説明版があり、広い道路が伸びていて、その先にすぐ、ニッカウイスキー工場の建物が建ち並んでいるのが視野に入ってきました。現在の余市は、まさに「ニッカ」の町という印象でした。今秋9月29日(月)に始まる、竹鶴政孝をモデルにしたNHK朝のテレビドラマ「マッサン」のブームを予感させる賑わいがありました。

しかし余市は、古くはニシン漁の千石場所として知られ、ニシン漁として栄えました。余市川を渡っていくと、余市湾に面して松前藩のお役所「旧下ヨイチ運上家」(国指定史跡重要文化財)や「旧余市福原漁場」(国指定史跡)などが修理復元されて残っており、往時を偲ばせています。道内でも貴重な歴史遺産のひとつとされています。また、「余市水産博物館」も多くの貴重な資料を収集しており大変勉強になりました。幸い天気にも恵まれて、さらに足を伸ばして「フゴッベ洞窟」や「余市宇宙記念館」までも見学できまして、すばらしい1日となりました。(執筆担当：中垣正史)

<主な参考文献及び参考資料>

□「北国に光を掲げた人々―わが道をつらぬく：ウイスキーを作った竹鶴政孝」合田一道著 北海道青少年叢書(31) (公財)北海道科学文化協会編集 平成25年10月1日発行 □「北海道開発功労賞 受賞に輝く人々―洋酒開発の先駆 竹鶴 政孝」北海道総務部知事室道民課編集 昭和46年3月20日発行 □「ヒゲのウイスキー誕生す」川又一英著 新潮社 昭和57年11月10日発行 □「リタの鐘が鳴る―竹鶴リタの生涯」早瀬利之著 (株)朝日ソノラマ発行 1995年5月30日 □「私の履歴書―34― 竹鶴 政孝」

日本経済新聞社編集・発行 昭和43年 □「歴史をつくる人々 ヒゲと勲章—ウイスキー革命は俺がやる」
 ニッカウイスキー社長 竹鶴 政孝著 ダイヤモンド社発行 □ ニッカの雑誌「ひげ」 ニッカウイスキー
 株式会社 □「ほっかいどう百年物語」 STV ラジオ編 中西出版 □「北海道の歴史散歩」 北海道
 高等学校日本史教育研究会編 山川出版社 □ 北海道新聞記事 □ 余市の現地リサーチ資料
 □ インターネット資料など

平成26年度 第1回 国際交流ランチセミナー記録

～米国マサチューセッツ州ノーブルズ高校生をお迎えして～

日時 平成26年6月29日(日) 11時00分～14時00分

会場 KKRホテル札幌 2F「孔雀の間」(中央区区北4条西5丁目)

(ゲスト)

Tomoko	Graham	グラハム 智子	Noble and Greenough School	Teacher	F
Tiffany	Tran	ティファニー・トラン		Teacher	F
Kristen	Adams	クリステン・アダムス	(student)	11th grade	F
Maya	Cortez	マヤ・コーテズ		11th grade	F
Jack	Donnelly	ジャック・ドネリー		11th grade	M
Cece	Duffy	シシ・ダッフィ		11th grade	F
Ian	Harris	イアン・ハリス		10th grade	M
Reilly	Macdonald	ライリー・マクドナルド		10th grade	F
Mac	Porter	マック・ポーター		10th grade	M
Camille	Walter	カミール・ウォルター		11th grade	F
Colin	Moodie	コリン ムーディ	札幌国際日本語学院	(アメリカ)	M
Zachary	Casselman	ザッカリー キャセルマン	札幌国際日本語学院	(アメリカ)	M
楊 婷		ヤン ティン	北海学園大学留学生	(中国)	F
許 文馨		シュイ ウェンシン	北海学園大学留学生	(中国)	M
尹 盤石		ユン バンソク	北海学園大学留学生	(韓国)	M
Arto	Tammenoksa	アルト タンメンオクサ	札幌大学留学生	(フィンランド)	M
Eleonora	Pssener	エリナ セナー	札幌大学留学生	(フィンランド)	F
Allen	Heffel	アレン ヘッフェル	(HOMAS通訳)	(アメリカ)	M
JoEllen	Gorg	ジョエレン ゴーグ	(米総領事館首席領事)	(アメリカ)	F

概要: この国際交流ランチセミナーは、2001年(平成13年)から、広く多国籍の外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の楽しい時間を共有しています。

今回は、メインゲストの米国マサチューセッツ州ノーブルズ高校生(10名)と広く多国籍の外国人ゲスト(7名)もお招きしての国際交流昼食会となりました。さらに、在札幌米国総領事館ジョエレン・ゴーク首席領事、道庁国際課江本健道課長・櫻井達美主幹のご出席もいただきました。

各テーブル毎に、多くの日本人高校生とアメリカ人高校生を中心に、約2時間のフリートークとゲストスピーチの国際交流の時間を楽しんでいただきました。

このセミナーは、今回で37回目です。参加者合計47名。(通訳は、札幌在住のアレンさんをお願いしました。)今回も、大勢のゲストをお迎えしましたので、時間の関係もあり、簡単なスピーチの形となりました。

米国マサチューセッツ州デダムスのノーブルズ高校と札幌国際情報高校の短期交換留学プログラムは、北海道・マサチューセッツ協会の紹介により、日本語クラス担当のグラハム先生と交渉を重ねて、2001年にスタートしました。隔年毎のプログラムで来札しています。2005年姉妹校提携。今年度は7回目の来札になります。札幌国際情報高校の短期留学及びホームステイを中心として、これまで、当協会のお世話で、小学校訪問・人形浄瑠璃教室・三角山〜大倉山縦走登山・国際交流昼食会・表敬訪問なども実施してきました。

1 コリン ムーディ (アメリカ・男性・札幌国際日本語学院)

私は、コリン・ムーディと申します。ニューヨーク参りました。私はニューヨークで弁護士をしていましたが、去年1年間は、タイで英語の教師をして、タイ語を勉強しました。そして今年日本に来て、現在、札幌国際日本語学院で日本語を勉強していますが、まだ今日のスピーチは日本語ではできません。7年前には、法学部の学生として東京で勉強していました。その頃から日本語に関心をもっていました。(会場からの質問) 私の好きな日本食は、カレーライスです(笑)。私はスノーボードが好きなので、札幌に来ました。あまり暑いのは嫌です。学校の日本語のコースが終了したら日本語能力試験の1級を受験します。将来は、日本で仕事を探そうと考えています。ありがとうございます。

2 ヤン ティン (中国・女性・北海学園大学留学生)

(日本語スピーチ) 皆さん、こんにちは。私は、北海学園大学園経営学部3年の留学生で、中国吉林賞からきましたヤン・ティンと申します。日本に来て3年半くらいになります。

高校の時に1年間宮崎県の高校留学しまして、それから北海学園大学に来ました。私もほかの留学生と同じようにたくさんアルバイトをしました。いろんな経験をしてとても楽しかったです。札幌は大好きです。私は日本料理が好きで、特に刺身が大好きです。毎週、食べないとガマンできないくらいです(笑)。今、卒業してから大学院に行くか就職するかちょっと迷っています。でもとりあえず、5年間は日本にいる予定です。どうぞよろしくお願いします。

3 ユン バンソク (韓国・男性・北海学園大学留学生)

皆さんこんにちは。私の名前はユン・バンソクです。出身は韓国のソウルです。私は、日本の「和食文化」が好きで、日本語の勉強を始めました。1年間勉強しましたが難しくてやめようかと思った時に、日本人の友達に誘われて1年間ワーキングホリデーで東京で働いたことがあります。ホームステイもしましたので、日本語のレベルが少し上達しました。韓国の大学に戻って日本語クラスの助手のようなことをしました。そしてやはり日本に留学したいと考えて、現在、北海学園の人文学部留学しています。これから、インターンシップとして、成田空港で働くつもりですが、すごく緊張しています。がんばります。どうぞよろしく願いいたします。

4 エリナ・セナー (フィンランド・女性・札幌大学留学生)

皆様こんにちは。エリナ・セナーと申します。札幌大学で交換留学生として学んでいます。フィンランドの小さな町の出身ですが、ラップランド大学で国際関係について勉強していました。札幌に来たのは、昨年の9月です。

あんまり、どんな話をしたらいいかわからないので、フィンランド語を教えてください。…(笑) <正確に聞き取れなくて記録できませんでした>今日はありがとうございます。

5 ジョエレン ゴーグ(アメリカ・女性・在札幌米国総領事館主席領事)

(流暢な日本語、早口で) こんにちは。わたしは、アメリカ総領事館の主席領事のジョエレン・ゴーグと申します(…笑・拍手)。<以下、日本語と英語で>

実は、わたしが最初に日本にきたのは、16歳の時高校の留学生としてでした。(16歳の人はいましか…)そして、それをきっかけに勉強して外交官になりました。皆さん、今日の出会いをきっかけに、国際交流の分野で活躍できるように頑張ってください。ありがとうございました。

6 アルト・タンメンオクサ (フィンランド・男性・札幌大学留学生)

皆さんこんにちは。わたしは、札幌大学で勉強しています、フィンランドから来たアルト・タンメンオクサと申します。日本の文化のことはあまり得意ではありませんが、今日は、ムーミンについてお話しします。ムーミンのキャラクターで一番カッコイイのは……(以下、理解できなくて記録できませんでした…中垣)

札幌は、私の住んでいたフィンランドの小さな町と比べて、とてもも便利で、欲しい食材もすぐに手に入りまし、日本の文化や生活にすっかり慣れてきて、生活を楽しんでいます。日本の「緑茶」と「かりんとう」が大好きです。今日は、ありがとうございました。

7 グラハム 智子(アメリカ・女性・ノーブルズ高校の先生)

皆さん、今日は、ほんとに素晴らしい会食を楽しんでいます。ノーブルズ高校はボストン郊外、南約30キロくらいのところにある学校です。2001年から札幌国際情報高校と交流を続けていまして、姉妹校提携をしています。今回は8名の学生を連れて参りました。今回は7回目になります。札幌に来るたびに楽しい経験をたくさんしています。いつもまだ帰りたくない気持ちになります。今日は、ほんとにどうもありがとうございます。

8 シュイ ウェンシン(中国・男性・北海学園大学留学生)

皆さんこんにちは。私は、北海学園大学工学部建築科4年生のシュイ・ウェンシンといます。今日は、こうして皆さんにお会いできてとてもうれしく思っています。私が日本に来たのは5年前で、九州の宮崎県で1年間高校生活を経験しました。去年は、夏休みに日本のいろいろなところへ行きました。日本のいろいろな文化やいろいろな生活に接してきました。わたしは、日本が大好きです。日本語ももっと頑張って覚えたいと思います。今日はありがとうございました。

9 ティファニー・トラン(アメリカ・女性・ノーブルズ高校の先生)

皆さんこんにちは。私は、ノーブルズ高校でグラハム先生と一緒に仕事をしています、ティファニー・トランといます。ノーブルズに来て4年で、今回一緒しました。私自身はマサチューセッツ州に生まれ育ちましたが、私の家族はベトナムから来ていますので、私はベトナム語も話します。ベトナムと日本の文化は似ているところもありますが、違うところもあって、今回とも興味深く感じています。日本に来て日本語を覚えるのはとても難しいです。すばらしい8名の生徒と一緒に札幌に来て、今日は皆様のあたたかい歓迎を受けてとてもうれしいです。ありがとうございました。また、これから日本のいろいろなところを旅行できるのを楽しみにしています。

10 シン・ダフフィ & ライリー・マクドナルド(アメリカ・女性・ノーブルズ高校の生徒)

ハイ！私はライリーといます。高校の2年生です。今日は、私は3年生です。私達は、今回の日本旅行をととても楽しんでます。皆さんとても親切にしてくださるのでうれしいです。アメリカと日本の文化はとても違いますが、こちらに来て実際にその違いを学ぶことができよかったです。ホームステイの家族と一緒に生活して、家の入り方とかいろいろな生活の仕方を楽しんでいます。姉妹とはお互いに、私が英語を教えて、彼女が私に日本語を教えてくれます。とても楽しく過ごしています。ありがとうございます。

11 ザッカリー キャセルマン (アメリカ・男性・札幌国際日本語学院)

今日は、ザッカリーといます。私はマサチューセッツ生まれですので、マサチューセッツのこ

とは詳しいですよ。日本に来た理由は、日本のことが大好きだからです。日本語も、食べ物も・・・山登りが大好きですので、北海道のすべての山を登って、そして富士山も登りたいと思っています。そして凧あげが好きです。ゴールデンウィークには、石川県、青森県に行って凧揚げ祭りに参加してきました。そして日本語も習得して帰りたいと思っています。今日はどうもありがとうございます。

12 アレン・ヘッフェル (アメリカ・男性・札幌市在住英語講師)

<最後に、今日は、通訳としてお願いしましたアレンさんですが、ロサンゼルス出身のアメリカ人です。語学が好きで、日本に来て4年間、英語講師をしています。日本語を流暢に話して、また漢字もマスターして完璧な文章を書きます。メールの交信をして感心しています。皆さんに、語学習得のアドバイスを少しお願いします。……中垣>

私の考えでは、語学にしてもほかのことも、なにかを習得するには、毎日欠かさずやるのが大切だと思います。週に1回とか英会話をやってもうまくはならないと思います。そして興味を持てる内容を学習するのが良いです。興味をもてないことを勉強してもそんなに頭に残らないと思います。あとは手書きのメモが大事だと思います。見たり聞いたりして理解することと、書いて覚えることとは、脳の働きの部位が違います。繰り返して書いて覚えることが非常にいい勉強になります。そして最後に、ネイティブの人が実際に話している英語を聞いて、一つ一つの単語の使い方や文脈を注意しながら聞いていたら、より使えるようになると思います。テレビドラマでも何でも、あ、いま、こういう使い方をしたとかを感じ取ることです。ただ単語の意味を知っていても使えません。あんまり新しい単語を探すのではなくて、自分の知っている言葉だけに集中して、その使い方に注意していれば、自分で使える英語が身についてきます。(拍手)



HOMAS International Exchange Luncheon June 29, 2014

事務局短信

平成 26 年度理事会・総会及びミニギャラリー開催

平成 26 年 4 月 23 日(火)午後、KKR ホテル札幌 3 階会議室「エルム」で、今年度理事会・総会を開催しました。森本会長の開会挨拶、続いて、ジョエレン・ゴーク在札幌米国総領事館主席領事および平野 正明北海道知事室次長の祝辞を頂戴しました。理事会・総会では、平成 25 年度事業報告・一般会計決算報告、平成 26 年度事業計画・一般会計予算案、役員改選などが承認されました、今年度も予算はきわめてきびしい状況にあります。

今回は、新見亜矢子さんのミニギャラリーを展示開催して、大変好評でした。(別紙送付の「展示作品解説」参照) また、HP には、カラー写真で掲載してありますのでご覧下さい。

マサチューセッツ北海道協会 新役員決まる (2014 年 5 月 15 日)

米国マサチューセッツ北海道協会は、去る 5 月 15 日の今年度総会で、新しい役員を選出しました。長年務められたスー・ルート会長、イクコ・バーンズ副会長は退任されて、新年度は、トーマス・カーチン会長、森田喜代子副会長、マイケル・カーグラ会計、エミリー・フレンチ庶務の各氏が決まり、新体制がスタートしました。

前役員のスー・ルート氏、イクコ・バーンズ氏は、創立以来長年にわたり北海道とマサチューセッツ州との姉妹交流の発展に尽力されてこられました。ここに、心よりお礼申し上げます。新会長・副会長・会計も創立以来のボードメンバーですが、カーチン氏は、コンコードカーライル高校のリーダーとして、札幌白石高校とのプラスバンド交流演奏会、七飯町との姉妹交流に関して長年お世話いただいてきました。来年の 25 周年の節目を越えて、今後のご活躍をご期待申し上げます。

平成 26 年度(2014 年度)の交流事業の詳報 と 今後の予定

- コンコードカーライル高校グループ来札<4 月 16 日(水)～19 日(土)>

26 名(生徒 21 名+先生 5 名)の一行。札幌マンガ・アニメ学院のレクチャーと交流会。道庁表敬訪問・赤れんが庁舎見学と道議会場見学(富原亮議員ご案内)。時計台見学。札幌大通高校訪問交流。北海道神宮とテレビ塔見学。そして国際交流夕食会(ジンギスカン)を楽しみました。ジンギスカンパーティーには、札幌市内の高校生 12 名、さらに米国総領事館のフランク・ヤングさん、札幌大学御手洗昭治教授もご参加参いただき、合計 52 名の盛大な交流会となりました。19 日、一行はバスで、次の訪問地七飯町へ出発しました。とても忙しい日程でした。

- ノーブルズ高校グループ短期交換留学プログラムで来札<6 月 21 日(土)～7 月 5 日(土)>

10 名(生徒 8 名+先生 2 名)で、札幌国際情報高校との姉妹校交流のプログラムに参加。校外研修では、大倉山ジャンプ台・北海道神宮、新川小学校訪問、札幌ドーム野球観戦、旭山動物園などを楽しんでいます。また、第 1 回国際交流ランチセミナー「ノーブルズ高校生を迎えて」<6 月 29 日(日)>は、7 名の多国籍ゲスト、14 名の日本人高校生の参加、さらに米総領事館ゴーク主席領事、道国際課江本課長・櫻井主幹のご出席も頂き、素晴らしい国際交流昼食会でした。

=今後の予定(日程順)=

- 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ「室蘭～伊達歴史探訪コース」<8 月 31 日(日)>
- 第 2 回国際交流ランチセミナー「ハロウィンパーティー」 <10 月 25 日(土)>
- 第 3 回国際交流ランチセミナー「ひなまつり」 <3 月 1 日(日)>

新入会員紹介(2014 年 3 月 15 日以降) <個人会員> 船津 秀樹

